

令和2年度第1回市川市福祉有償運送運営協議会（議事録）

1. 開催日時：令和2年7月28日（火）16時00分～17時00分

2. 開催場所：全日警ホール 2階 第1会議室

3. 出席者

【委員】

会長 中根委員

副会長 高橋委員

委員 海野委員、大塚委員、佐藤委員、藤井委員、武藤委員
菊池委員、福地委員、菅谷主査（磯部委員代理）

（欠席者1名）

【事務局】

大久保（福祉政策課主幹）ほか

4. 議事

- （1）団体から提出された移送サービス状況について
- （2）福祉有償運送の新規登録の申請について
一般社団法人ロッタリンクス
- （3）福祉有償運送の更新登録の申請について
特定非営利活動法人 郷の会 オリーブの家
- （4）その他

《配布資料》

- ・ 会議次第
- ・ 資料1 移送サービスの状況（令和元年10月～令和2年3月）
- ・ 資料2-1 申請団体要件確認票（一般社団法人ロッタリンクス）
- ・ 資料2-2 団体情報（一般社団法人ロッタリンクス）
- ・ 資料3-1 申請団体要件確認票（特定非営利活動法人 郷の会 オリーブの家）
- ・ 資料3-2 団体情報（特定非営利活動法人 郷の会 オリーブの家）
- ・ 当日配布資料1 第8期市川市福祉有償運送運営協議会委員名簿

項 目	内 容
中根会長	<p style="text-align: center;">(1) 団体から提出された移送サービスの状況について</p> <p>それでは、議題(1)「団体から提出された移送サービスの状況について」です。 事務局より説明をお願いします。</p>
事務局	<p style="text-align: center;">(資料1に基づき説明)</p>
中根会長	<p>ただいま説明がありましたが、何かご意見、ご質問がありましたら、お願いします。</p> <p style="text-align: center;">(質問・指摘なし)</p>
中根会長	<p>私の所属する全国移動サービスネットワークでも色々な情報収集はしておりますけども、事務局からただいま報告がありましたように、基本的には運送件数が減っているというのが全国的な傾向と言って間違いのないのかなと思います。本当は行かなければならない通院等については、薬は宅配するなど、とにかく通院に行かないようにするといったことが見られます。また、介護事業者については、なるべく居宅介護訪問等することで数を調整しているという団体もあります。こういった状況の中で、運行件数の減少といった傾向が見られるのは、市川市に突出したことではなく、全国的なことということでご理解いただければと思います。</p>
	<p style="text-align: center;">(2) 福祉有償運送の新規登録の申請について (一般社団法人ロッタリンクス)</p>
中根会長	<p>それでは議題(2)「福祉有償運送の新規登録の申請について(一般社団法人ロッタリンクス)」です。 一般社団法人ロッタリンクスより、説明をお願いします。</p>
ロッタリンクス 大木 様	<p style="text-align: center;">(資料2-1、資料2-2に基づき説明)</p>
ロッタリンクス 大木 様	<p>また、現在の利用者は119名です。これから、地域に根差した活動をしていこうと思っています。今回の新型コロナウイルス感染症のことでもそうですが、引きこもりになってしまったり、生活のリズムが崩れてしまったりと、私達が支援している方について言うと、生活の根本が崩</p>

	<p>れているように思いました。タクシーなどの公共交通機関に乗れる方はそちらに乗っていただくのですが、なかなか意思の疎通が取れない方は時間が掛かったり、その方のタイミングに合わせなければならない方は、どうしても家の中から出られなくなったりしますので、今まで出来ていたリズムが崩れて、生活に支障をきたすことになってしまいました。</p> <p>このような中、福祉有償運送という制度を見付け、これなら普段慣れているヘルパーなどが寄り添いながら一緒に地域に出ることが出来ると考え、今回、新規登録の申請をさせていただきました。</p>
中根会長	<p>ただいま説明がありましたが、何かご意見、ご質問がありましたら、お願いします。</p>
藤井委員	<p>利用者 119 名の中で対象を限定して、知的障がい者と精神障がい者の 5 名を運送の対象とするということでしたが、将来的に認可を受けて運送を継続していく時に、運転者を増やしていくことや、利用対象者を増やしていくなどのお考えが現段階であるかどうかお伺いしたいです。</p>
ロッタリンクス 大木 様	<p>現段階で 5 名の運転手を増やそうと思っています。今回の協議会での申請までに間に合った運転者の人数が 2 名でしたので今は 2 名ですが、これから増やす予定です。利用者について今は 5 名に絞っていますが、私どもも着実に福祉有償運送を行いたいので、移動困難というよりも、障がい者の方に限らず、地域の福祉的要素が必要とされている方の助けになればと考えています。</p>
藤井委員	<p>ただいま“福祉的要素”という言われ方をされていましたが、現行法制度で対応できる方の枠組みでは、将来的に公共交通の計画の方針が定まってくる中で、ある意味、計画を策定する時に、例えば公共交通の中に、文科省ベースのスクールバスなどのものを皆でやろうということで、計画策定に向けて動き出す要素もあります。そういった中で、運送対象者として加入されている方の枠組みも広がるのかなと思います。ぜひ、着実に展開していただければと思います。</p>
中根会長	<p>ご意見としてしっかり受け止めていただければと思います。</p>
佐藤委員	<p>運転者のところで質問です。車がセダン型ということで、福祉有償運送の講習修了済とありますが、他の要件として介護福祉士等の資格を持つ方が運転するのかなと思ったのですが。そういった資格を持っていない方で、セダン型の運転者講習を修了されているなどの記載がありませんでしたが、セダン型を使用するという事で運転者はこういった資格をお持ちでしょうか。</p>

<p>ロッタリンクス 大木 様</p>	<p>介護福祉士とヘルパー２級を持っています。あとは最近知ったのですが、出張講習というものがあるということなので、今度はこちらの講習を利用したいと思います。資格のある方で運転者を固めていく予定です。</p>
<p>中根会長</p>	<p>他にご質問、ご指摘はございますでしょうか。</p> <p style="text-align: center;">(質問・指摘なし)</p>
<p>中根会長</p>	<p>それでは、一般社団法人 ロッタリンクスの新規登録申請について、合意をいただけたということですのでよろしいでしょうか。</p> <p style="text-align: center;">(異議なし)</p>
<p>中根会長</p>	<p style="text-align: center;">(3) 福祉有償運送の更新登録の申請について (特定非営利活動法人 郷の会 オリーブの家)</p> <p>それでは議題(3)「福祉有償運送の更新登録の申請について(特定非営利活動法人 郷の会 オリーブの家)」です。 特定非営利活動法人 郷の会 オリーブの家より、説明をお願いします。</p>
<p>オリーブの家 古屋</p>	<p style="text-align: center;">(資料3-1、資料3-2に基づき説明)</p>
<p>オリーブの家 古屋</p>	<p>以前から福祉有償運送を利用して、このサービスを利用することで、利用者にスムーズにサービスを提供することが出来ているので、今後も継続したいと考えます。</p>
<p>中根会長</p>	<p>ただいま説明がありましたが、何かご意見、ご質問がありましたら、お願いします。</p>
<p>中根会長</p>	<p>更新の内容について、前回からは変更なしということですのでよろしいでしょうか。</p>
<p>オリーブの家 古屋</p>	<p>変更はありません。</p>
<p>中根会長</p>	<p>他にご質問、ご指摘はございますでしょうか。</p>

	<p style="text-align: center;">(質問・指摘なし)</p> <p>それでは、特定非営利活動法人 郷の会 オリーブの家の更新登録申請について、合意をいただけたということによろしいでしょうか。</p> <p style="text-align: center;">(異議なし)</p> <p style="text-align: center;">(4) その他</p>
<p>中根会長</p>	<p>それでは議題(4)「その他」についてです。</p> <p>新型コロナウイルス感染症の動きが活発になっていた3月、4月以降、各事業者の方や福祉有償運送実施団体の方はご苦勞をされていることと思います。今の状況について、今日は委員の方に実情をお話しいただきたいと思います。</p> <p>今の状況については、前回の協議会(令和2年1月28日開催)の時には想定されていないことがたくさん起きていますので、そういったことも市川市の輸送を考える中で共有していきたいと思います。</p> <p>この分野については、今日お越しいただいている千葉運輸支局の佐藤委員や、また、藤井委員がご専門だと思いますが、前段にお話ししたいことがあります。この間、かたや新型コロナウイルス感染症があり、かたや法律の改正が行われました。地域公共交通活性化再生法が一部改正ということで、令和2年6月3日に公布されました。施行は6か月以内ということで、国土交通省の方から出されております。どういうことが変わったのかというと、いくつか変更点というより、これから期待される場所が出ています。</p> <p>まず、市川市も含めた自治体において大きいと思っているのは、地域公共交通計画マスタープランと言われているものの作成です。こちらも、交通計画の中に、自家用有償運送や福祉輸送などのスクールバスなどを含めた、総合的な地域の多様な輸送資源を含めた計画を立てましょうということが法律で謳われてきております。これは福祉有償運送を行っている団体からすると、いわゆる公共交通でなかなか担いきれないニッチな部分を我々はカバーしているというような思いで進めている方ももちろんいらっしゃると思います。かたや、ニッチと言えども、交通計画としては全体でしっかり捉えていくべきということで、一歩前に進んだ施策になってきているのかなと思います。</p> <p>あとは交通空白地関係の部分の改正や、交通の専門家の方が非常に協調して言っていますが、MaaS(Mobility as a Service)という、ワンストップでの交通の政策等の推進が色々出ています。やはり今、地域の事情に合わせた交通計画・施策がすごく大事になっているのかなと思います。</p>

中根会長	<p>一方で、今回の新型コロナウイルス感染症のことでは、先ほど申し上げたとおり、本来は外出しなければならない方がなかなか出てこなくなっているという実情があります。委員の中にはタクシー事業者の方がいますので、現状をお話しいただければと思います。</p> <p>それでは、武藤委員。新型コロナウイルス感染症になってからの状況について、お願いします。</p>
武藤委員	<p>タクシー業界の方もかなり大きな影響、それこそ大打撃を受けました。2月の後半ごろから影響が出始めて、特に大きな影響があったのは、緊急事態宣言の発令と重なる4月、5月です。千葉県タクシー協会の輸送実績をみると、4月、5月は対前年同月比で、だいたい3分の1位に落ち込みました。6月の実績は協会ではまだ出ていませんが、おそらく前年同月比の3分の2位になると思われます。</p> <p>4月・5月の緊急事態宣言の状況についてですが、とにかく人がいません。人がいないものですから、タクシー業界自体も稼働調整をしないとならず、各事業者で稼働調整を行いました。事業者によっては、全てお休みするというところもありました。おおむね半分くらいの調整をして、月の半分は乗務員に出勤してもらい、半分はお休みをしていただくなどをしていました。国の雇用調整助成金を利用する事業者も多かったのですが、休業手当を支給して、乗務員には涙を呑んでもらうという、いずれにしてもそれぞれの事業者が負担を受けました。4月・5月の2か月間はこの様に対応した事業者がほとんどでした。6月に入り現在に至っても、稼働調整をしている事業者もありまして、市川においてもほぼほぼ同じような状況だと思います。</p> <p>お隣の浦安市はもっと打撃が強く、千葉県内では浦安地区と成田地区が大打撃です。成田地区は飛行機が動かないので、お客さんを見かけないですし、1日空港につけていても、1回もお客さんを乗せることがないという状況がありました。浦安地区については、テーマパークがずっと休園で、周辺のホテルや商業施設等々もほとんどお休みの状況になりましたので、対前年比の1割・2割という状況は4月から続きました。少しずつお客さんが戻ったことで回復傾向にあり、特に昼間はお出かけになられる方が多くなってきました。中根委員のお話にあった、通院等々の利用も日を追うごとに増えています。</p> <p>ただ、夜の状況はまだまだ戻りきらないです。“夜の街”という言葉が1つのキーワードになってしまいましたが、まだまだ厳しい状況にあります。これはタクシー業界に限らず、接待を伴う云々ではなくて、飲食業界が大変厳しい状況にあります。この中で業界の取り組みとして、タクシーを使ったフードデリバリーというものが船橋市では7月から、松戸市では6月から始まっています。それぞれ、市にも応援をいただいて、移送費については市の方で負担となりましたので、飲食店についても負</p>

	<p>担なしということです。自宅から3 km以内で、1000円以上のご注文を対象としてやらせていただいています。市川市でこういうことが出来れば地域も元気になりますし、まだコロナ渦が終わったわけではないので、利用者にとっても、テイクアウトを取りに行けない人やタクシーに乗れない人もたくさんいるでしょうから、フードデリバリーが必要なのかなと思います。このように、6月以降は少しずつ戻りつつあるが、まだまだ厳しいというのが現状です。</p>
中根会長	<p>大塚委員、いかがでしょうか。</p>
大塚委員	<p>だいたい、武藤委員のおっしゃったとおりです。事業者も3月から同じような状況になり、半分ほど利用が落ち込みましたし、同じく稼働調性も行いました。当社では、マスクや備品を営業所に用意するために調達しまして、市川市でも配布していただいたので、そちらを活用しながらマスク不足もなんとか耐えました。マスク費の他、車の中に入れる装置などは18,000円位しまして、こういった備品に関する経営的負担が今後大きくなってしまふのかなと思っております。</p>
中根会長	<p>ありがとうございます。本日は、福祉有償運送実施団体としてオリーブの家の方にお越しいただいています。前期比で3割程度減っている様子でしたが、新型コロナウイルス感染症の流行期間の影響はどういったものでしたでしょうか。状況を教えていただければと思います。</p>
オリーブの家 古屋	<p>新型コロナウイルス感染症の影響もあり、どこかに出かけるのが怖いという方が多く、利用を断ってくる方もいました。こちらとしても、マスクをしたり、車内の窓を開けて換気したり、車が満杯にならないようにといった対策はしていました。5月になって段々と利用が戻ってきたかなという感じです。</p>
中根会長	<p>今、事業者側としてご苦労されている状況が伝わってきました。 藤井委員いかがでしょうか。先ほど私から申し上げた通り、法の改正もあって今後の交通への期待や整備があったのですが、藤井委員から何かございましたらお願いします。</p>
藤井委員	<p>私は普段大学にいまして、この2月～6月にかけては色々な自治体の公共交通関係のサポートをさせていただいているのですが、自治体からの問い合わせが多くなりました。内容は、タクシー事業者やバス事業者に対して、どのようなサポートができるかといったもので、例えば、1台あたりに対してどういったサポートをすればいいのかといった考え方などです。</p>

一般タクシー部門と介護タクシー部門では性格がだいぶ違います。一般部門に関しては総トータルとしての実践的な予防、介護タクシー部門に関しては健康管理の面で気にしなければいけない面があり、そこをどうカバーすべきかの相談です。タクシー事業者は、新型コロナウイルス感染症に対してどう接したらいいか、どう予防したらいいのか、そういったことについてですね。

また、これからの方法を考えていく時、公共交通を考える中で、中根会長のおっしゃったとおり、公共交通という枠組みの中で、移動そのものを全体で考えなければいけない。今回、市の交通計画担当の職員もいますのでお話しますが、地域公共交通計画を作る際に力を総動員するというので、市川市の中で公共交通網形成計画を策定することになっていました。公共交通と福祉交通の差は何かと考えた時に、以前はこの2つの線引きが分からないとよく言われていましたが、そもそも線引きをするものではないのではないかとという発想があります。

また、市川市は都心部に近いので車両台数は結構確保されていますが、私に関わっている富津市ではタクシー車両自体が少ないです。こういった交通不便地域の中では、公共交通計画を作る以前からということで、福祉有償運送を行っている利用者の方、団体の方に、地域の公共交通のある意味、定時定路線型の運行をしていただくということで、去年動き始めました。地方都市の中では、公共交通と福祉交通を線引きするのではなく、その中で移動しやすい環境をどう作ったらよいかと動き出していますので、市川市なら市川市の中で、どのような政策を作れるのかといったことを、福祉部門と交通部門で縦の繋がりではなく、横に繋がりを考えなければならぬのかなと思います。

私もこういう形でこの協議会に出席させていただいておりますけども、側面としては市川市の公共交通にも関わっていますので、両方の中でこれからどう作り上げていくかは担当と話し合いながら、話を深めていきながら進めていきたいなと思います。

中根委員

藤井委員の話を含め、やはりこの数ヶ月で色々状況が変わってきており、それに対して色々アクションをしなければいけない状況にあるのは確かだと思います。市川市の行政の委員の方、福祉の面もそうですし、この数ヶ月で何か変わってきたことや取り組み、対策等があればお教えいただければと思います。

高橋委員

藤井委員からのご指摘のとおり、まだどうしても線引きと言いますか、縦割りの状態というのは拭えませんが、このようなことを言っている場合ではないということもひしひしと感じています。新型コロナウイルス感染症という状況の中で外に出られない弊害もありますが、無理に引っ張り出せないということもありまして、交通だけではなく、事業の在り

方も含めて考えていかなければいけないというのを痛感しています。本日の会議もどうやったら開催できるのかというところから始まりまして、本来なら書面開催でもいいのではと思いましたが、会議の性質上、顔を合わせる必要があるということで、ではその中でこういった対策をすれば開催できるだろうというところからスタートしました。色々な事業も、これからはこういった視点を持たないといけないのだろうと思います。

移動について考える時も、それを支える全てのもの、目指すものや目的にされるものなどをトータル的に考えていかなければいけないと感じています。市役所の縦割りには縦がとともありますが、協力しながら福祉の視点を常に持って、移動についてもそうですし、会議開催の仕方、手続きの仕方、そういったことも総合的に考えていかなければいけない事態に入ったと考えています。

中根会長

大変正直に答えていただきありがとうございます。

中根会長

新型コロナウイルス感染症の影響で、タクシー事業者も福祉有償運送の団体も色々のご苦勞をされているということでした、その中で、藤井委員からもご発言あったように。色々な取り組みを、公も民も一緒に考えていきたいというところですが、海野委員、外に出るのは大変だったかと思うのですが、最近はいかがでしたでしょうか。

海野委員

自粛期間中の外出は本当に大変でした。妹が教育関係の仕事をしているため、コロナには過敏になり、福祉タクシーでも安全を信じてくれず、伝染病の恐ろしさで不安にしかねませんでした。

母もサ高住に入居していましたが、感染の恐れから思うように受診が出来ず、グループホームに転居しました。グループホームは密室のイメージがあり、不安でしたので、いくつか入居前に問い合わせました。車椅子で入れるのかは「勿論です。是非、お越しく下さい。」と仰ってくださいました。妹に書類にサインをするように言われたので、お伝えしていた時間に行きますと職員が母の部屋に案内してくださいました。エレベーターを降りると、「もう、そこに居るの」と奥から女性の声が聞こえ、初めてホーム長に会うのでご挨拶をしようとする「相談室で会うことになっていたはずですよ。」と強い口調で言い、「聞いていなかったの、すみません。」と言いましたが、全く聞いてくださいませんでした。

「今度からタイヤは拭かせてもらいますからね。」と。私が勝手に上がってきたと思い込んでいるのか、会話になりませんでした。

談話室では書類とボールペンを乱暴に置き、窓口の書類の説明も無く、「サインはしてもらっても、妹さんだけですから。」と強い口調で睨みな

がら、ホームのことを質問しても全部に「自粛です。」としか言わず、そっぽを向けられました。

コロナの対策もコロナのコの字も言わずに「自粛です。」だけでした。こんな人とこれから母のことを決めていくのかと思うと、恐くなってきて、何でそんな態度を取るのかも聞けませんでした。「話せる時間も10分だけですからね。」と言いながら、ドアをバンバンと全開にして、イラつきながら、出たり入ったりを何回もして、嫌がらせに思いました。母が不安になってきて色々と話しているのに、何も言わずに押手を持たれ「あんな所にタクシーに停まられたら、うちの車が停まれないですよ。」と、引っ張られ、母の声が聞こえているのに振り向くことも出来ず、玄関まで出されました。ホーム長が押手を放したので振り向くと、睨み付けているホーム長と壁の間から「ゆりちゃん、バイバイ」と顔と手を出して言っていました。駐車場も広く、玄関も広いのに母に譲ってもらえませんでした。最後まで挨拶も自己紹介もありませんでした。

妹にも私のことで苦情を言ってきたようで、妹は「ホーム長が良い人か、悪い人とかは、もうしょうがない、あそこにもう入っちゃったのだから。もう人質のようなものなんだからね。苦情を言ったら、追いつめられるのはお母さんなんだからね。」と言われました。私と妹の間に溝が出来ました。何でこんなことになるのか？介護を仕事にしている人が車椅子は汚い、それだけの物としてしか考えられず、車椅子で生活している人の気持ちをここまで蔑ろにして良いとは思いません。

コロナ、感染、人手不足、管理、ホーム長には言葉上聞こえの良い理由はたくさんあると思います。でも、ホーム長の行動は意識と常識の問題です。コロナ禍の中で、本当に一生懸命にヘルパーさん達は頑張ってくださっています。グループホームの組織に市は立ち入れない部分も多くあると思いますが、人権やモラルは歪むことが無いように、これからも目を向けてくださいますようお願い申し上げます。

中根会長

ありがとうございます。とても大事な視点だと思います。これがベースにあって、移動や公共交通の在り方に繋がると思います。

こういった意味で、今のコロナ渦で世の中の在り方が変わってきていますが、タクシーや事業者が対策をして頑張っているけれど、なかなか伝わっていないということがあります。広報や伝え方というところで、対策を頑張っているということを行政には色々なところでPRしてほしいと思います。課題が山積しているなかで、この協議会で共有・検討していきたいと思っています。

他にございませんか。

それでは、令和2年度第1回福祉有償運送運営協議会を終了します。

終了	(事務局より今後の予定について説明)
----	--------------------

市川市福祉有償運送運営協議会
会長 中根 裕